

斜産斜消

斜面で生産し、斜面で消費する循環型斜面地の提案

概要 | summary

長崎や佐世保、別府、北九州など九州には多くの斜面居住地があります。元々は畑だった場所に、高度成長期の住宅不足を受けて無計画に造られた居住地であり、土地が狭く家々が立て込んでいます。道路が狭いために、周囲には食料品店もなく、斜面地の住民は急な坂を往復しながら買い物をするしかありません。また近年、人口減少や平地の高容積化により、斜面地の人口は急速に失われ、空き家や空き地が増加するという新たな問題が起こっています。

しかし、これを良い機会ととらえてみてはどうでしょうか。これらの空き家や空き地を昔のような畑に戻し、住民自ら生産を行ない、自らの食料供給源とする。そうすることで、きつい斜面の往復が少なくなるかもしれません。そして、斜面地に新たな価値が生まれるかもしれません。そんな、夢のような提案です。

○共同農園

空き地を住民共同の農園とします。住民は自らの食料をここで生産します。また、住民達のコミュニケーションの場となることで、コミュニティの再構築を行うことができます。

Citizen

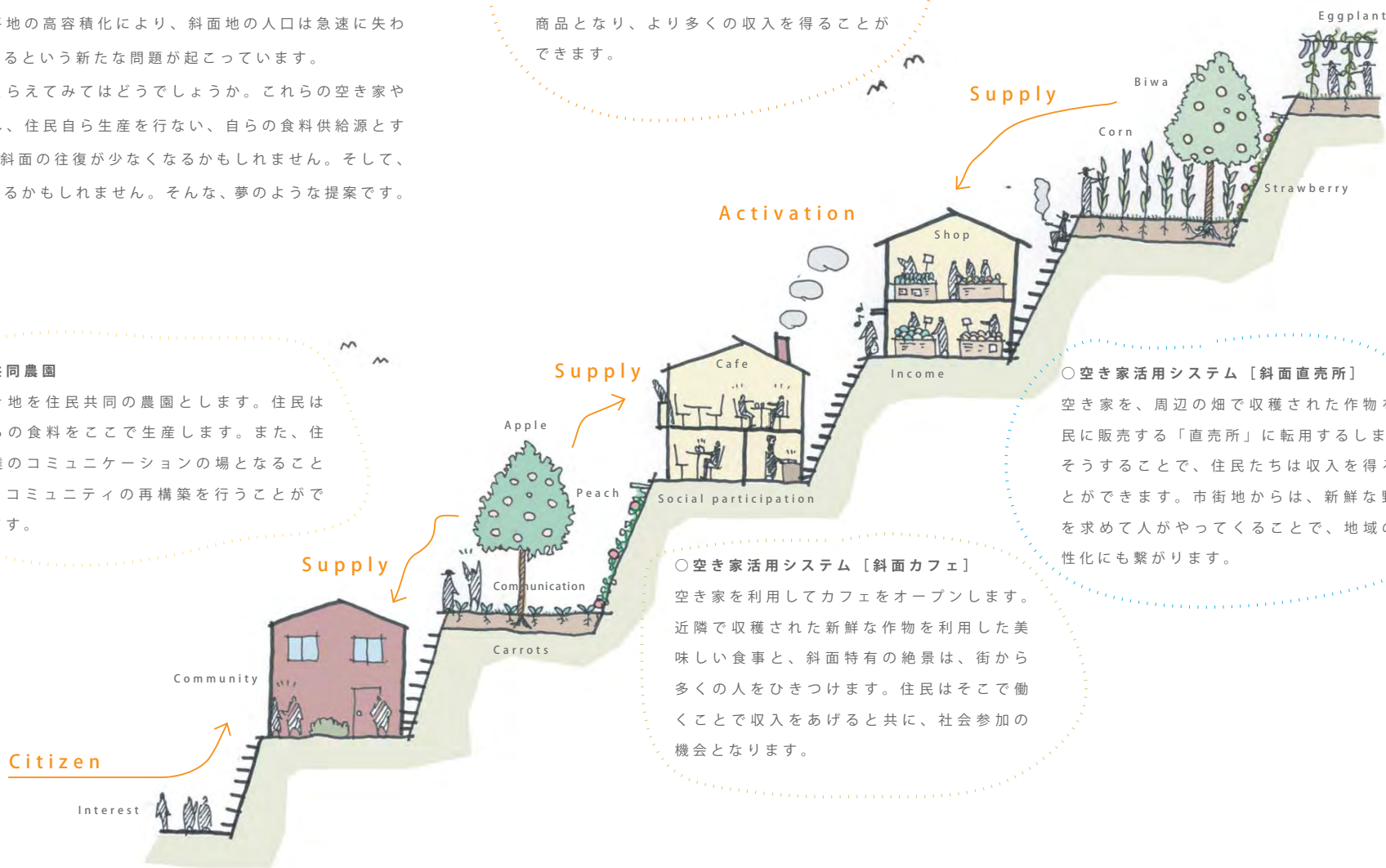
Interest

○都市野菜ブランド

都市近郊で採れた作物は、その都市を愛する人にとって非常に価値のあるものです。ブランド価値を高めることで、高付加価値商品となり、より多くの収入を得ることができます。

○住環境の改善

これまで建て込んでいた家が無くなり、畑となることで、日当たりや風通しが良くなり、住環境が改善します。畑からは、これまで見られなかった街の風景を楽しむことができます。



Activation

○空き家活用システム [斜面直売所]

空き家を、周辺の畑で収穫された作物を市民に販売する「直売所」に転用します。そうすることで、住民たちは収入を得ることができます。市街地からは、新鮮な野菜を求めて人がやってくることで、地域の活性化にも繋がります。

○空き家活用システム [斜面カフェ]

空き家を利用してカフェをオープンします。近隣で収穫された新鮮な作物を利用した美味しい食事と、斜面特有の絶景は、街から多くの人をひきつけます。住民はそこで働くことで収入をあげると共に、社会参加の機会となります。